

2025 年 6 月 5 日 千葉大学アカデミック・リンク・センター

2025 年度第 2 回 ALPS セミナー

「大学教育・学修における生成 AI の利活用：法制度、リスクを踏まえて、今留意すべきこと」

参加者アンケート（Zoom によるウェビナー）

当日参加者数： 336 名 アンケート提出数： 139 件

本セミナーについて、参加者の皆様から寄せられたご意見・ご感想を以下に掲載いたします。なお、原則原文のまま掲載しておりますが、個人名・組織名が特定できないよう事務局で若干の調整をおこなっておりますことをご了承ください。

1. 本日のセミナーの満足度はどの程度ですか。

・満足した	50 名	・まあ満足した	62 名	・どちらとも言えない	19 名
・やや不満である	4 名	・不満である	0 名	・評価できない（途中退席等）	4 名

2. 1. でそのように回答した理由をお書きください。

満足した

- ・ 講師の説明が大変分かりやすかった。（同様のもの 2 件）
- ・ AI 利用に関して、法的観点がまとめられていた。
- ・ 大学における生成 AI との関係について押さえるべきポイントが分かったから
- ・ 法律面から系統的かつ実践的に解説していただいた。
- ・ 生成 AI を巡る状況等に関し詳細に説明してくれたから
- ・ 海外主要国での動向のご紹介や質疑での丁寧なお答えを含め、多くの有用かつ示唆に富んだお話を伺うことができた。
- ・ 生成 AI の問題の概要が網羅的に学べました
- ・ 法的な側面から考えることがあまりなかったため新鮮でしたし、リスク管理の面でも有益でした。
- ・ 現在の問題とされている事項を整理することができました。ありがとうございました。
- ・ 理解が深まりました。
- ・ 著作権に留意しなければならない基本的な事項
- ・ AI 活用に対する、最新情報が得られた。
- ・ タイムリーな話題だった
- ・ 生成 AI について、法的なことが理解できた。
- ・ 限られた時間の中で役立つ情報をいただけたため
- ・ 今回の生成 AI に関する研修は、図書館司書として今後の業務を遂行するためにも非常に有意義でした。図書館としては、今後、AI と伝統的な情報源をどう組み合わせるかまたは法律上も問題ないような対応をするためには、より実践的なサポートが求められると感じました。AI 時代に対応した情報リテラシー教育の一翼を担えるよう、支援体制を強化していきたいと思います。
- ・ 法的観点から生成 AI の利活用について説明いただき、理解を深めることができました。また、国が公表している資料を共有いただき、大変参考になりました。
- ・ 生成 AI を取り巻く法律などの進捗状況が分かった。
- ・ 出典元など、アクセスすべき情報が分かり、参考になった。
- ・ なにかと疑問点が多い生成 AI に関して、主に法的な観点からの、整理された詳しい説明があった。
- ・ 生成 AI をめぐる著作権を含めた様々な状況について知ることができたので。
- ・ 資料がわかりやすく、講師の説明もわかりやすかったため

- 生成 AI に関する、今現在留意すべき点を、短い時間で把握することができました。ありがとうございました。
- 文化庁の文書の存在を知らなかったので参考になりました。
- 最も注目されているテーマであり、成立したばかりの法律 (AI 推進法) を含んでいたからです。
- 関心事かつ待ったなしで対応が必要な事柄について、貴重なお話をうかがうことができたため。
- 生成 AI の周辺に関する諸動向が俯瞰できた。
- 生成 AI に関わる法整備の現状が分かった
- 難しい内容を分かりやすく丁寧に説明いただきましたので、しっかりと理解することができました。
- 参照すべき資料をまとめていただき、著作権のことなど、注意すべき点がわかったので
- 期待以上の内容でした
- 豊富な資料とともに、今話題の AI を利用した「●●風」も取り上げられており、大変勉強になった。また著作権とも絡めて説明してくださり、大変理解が深まった。Q&A でも、取り上げていただけたことで、今まで自分で調べていたことがよりクリアになった。大変有意義な時間となった。
- AI に対する法制度の状況等が分かった。お勧めの参考文献を教えてもらった(重要)。
- 知りたい内容であったため。

まあ満足した

- 最後の方、音声がよく聞き取れなかったため
- 大学教育や学修という点があまりよく見えなかった。
- 生成 AI について著作権のことをあまり勉強していなかったので参考になりました。
- AI に関する著作権や社会的な動きについて理解できました。
- AI と著作権への理解が少し深まったので
- 一般的な論点から法令など知ることができました。
- 生成 AI について、まとまった知識をご提供いただいたため
- 知りたかった内容が含まれていたためです。
- 生成 AI 活用と法整備について状況が分かり、利活用促進で走りながら対応していくことも可能かと思いました。
- おおまかに生成 AI をとりまく現状の説明だったため。
- マイクのせい、こちら側のパソコン音声の問題か、話が聞き取りづらかった。
- 大学における生成 AI の活用における注意点を学ぶことができたため
- AI に関する法制度やリスクについての理解を深め、教育・学修、図書館利用における AI の利活用について自ら考える機会となった。
- AI と著作権について参照すべき資料などを教えていただき、今後の参考になりました。
- 既存の成果物から出力される生成 AI を利活用する上で知っておくべき法的なリスクや枠組みについて、多面的に学ぶことができたため。他方、時間的な制約もあつてのこととは思いますが、全体的に駆け足気味な印象を受けた。
- 詳細に説明いただいたので大変参考になりました。ただ、Q&A に実名で早く質問したものの回答いただけなかったのは残念でした。
- 同じようなテーマのセミナーを何度か受講したことがありますが、理解しきれず、申し込みました。法律面、倫理面、実践面の理論だけではなく具体例を提示してくださり、少し理解が深まりました。ただ、

こちらの原因である可能性も十分あるのですが、音が明瞭ではなく少し聞き取りづらかったです（文字起こしも間違いが多かったのも、音質に問題があったのは元の原因の可能性もあります）。

- 生成 AI の現状を把握するにはとても論点がまとまったわかりやすい内容だったが、教育・学修の場面で何に留意していく必要があるのか、の部分の内容が期待していたよりも少なかった。
- 法制度のことについて、最新の動向が知れたため。
- 学習支援に関わっていて、生成 AI 周りで色々気になる部分が多かったため、チェックリストなど、案内できる情報源を整理して示してもらえたこと、例示も入れつつ説明してもらえたことで、疑問や不安の一部は解消したため。
- 生成 AI の利用における著作権侵害のリスクについて理解できたので。
- 生成 AI 関連法についての理解が深まり有意義だった。反面、（質問にもあったように）各大学での具体的な導入事例や活用事例を知りたかった。
- 生成 AI の著作権の扱いなど、疑問点が解消されました。
- AI だからではなく、従来から配慮すべきことは変わっていないので、引き続き著作権（類似性と依拠性）を意識しながら利用するという現状の考えと課題が理解できました。
- 昨今の AI の利活用における懸念点や法整備について知ることができた。
- 先生のお話が聞き取れずに 資料と見比べてしまうことが度々ありました
- 大学教育に関わる内容というよりも一般的な生成 AI の著作権・個人情報保護の課題であったため。
- 法整備の状況、著作権のことなどが詳しくわかりました
- 初めて聞く内容が多く、ついていけない部分もありましたが、それだけ学ぶことが多かったと感じています。今後は自分でも調べながら理解を深めていきたいです。
- 内容に啓発されたから。
- 何が良くて、何が悪いか（違反）なのかを、どこで確認したらよいか、どう考えたらよいか、何を見たらよいか、が大体、わかったので。
- 普段意識しない法律からの生成 AI について考えるきっかけになった。
- 学内の生成 AI に関する検討はどうしても限られた知識（学生が生成 AI を作成してレポートを作成しているようだ、など）に基づいた議論になるが、今回は関係法令等の専門家の知識に基づいたセミナーであり、新たな視点を持つ機会となった。
- 昨今の注目されている AI に関連する注意点などを学べて非常に勉強になった。単純に個人の知識不足で少し理解が難しい部分があった
- 知らないことも多く、聴くだけでも学習することができました。
- 貴重なお話を聞く機会をいただき、ありがとうございました。個人的には、もう少し利活用の具体的な内容もお聞きしたかったと思いました。

どちらとも言えない

- 私にとっては難しい内容でした。（同様のもの 1 件）
- 音声が多く聞き取りづらかった（同様のもの 1 件）
- 一般教養としてはためになるが、業務には直接繋がらない内容
- 一方的に話し過ぎたし、難し過ぎた。質疑応答が長い方がいいのでは？
- 生成 AI の一般論の時間が長すぎ、本セミナーの題名と乖離していたように感じられ、期待していたものと違った。

- 内容が難しく理解が追い付かなかった。
- 「大学教育・学修における」＝「授業関連（課題レポート作成など）での学生の使用の場合」を想定されたものと解されたため
- 学生に向けた生成 AI 利活用における留意事項関係、情報リテラシー系の話かと思っていたが、どちらかというと事業者や、大学教員向けに生成 AI 活用時のリスク点についての内容だったため。タイトルしか当日まで見ていなかったのも、少し思い描いていた内容とは違っていたため。
- 参考資料等、現状を理解するための資料を多くご提示くださって、ありがとうございます。ただ、セミナータイトル「大学教育・学修における生成 AI の利活用」については、もう少し具体的な内容を期待していたためです。
- 生成 AI の位置づけが一般的に普及していない時点での講演だった為、教育機関としてのスタンスが見えにくかった。
- 申し込み当初、教育現場における活用事例等が多少は扱われることを期待していたが、（セミナー冒頭に生貝先生が述べていた通り）法制度に関連するお話のみだったため。
- 総合的包括的に考えるということには分かったんですが、具体的にどうすればいいのかについてはもやもやしているため

やや不満である

- 音が悪く視聴がつかかった
- 「大学教育・学修における生成 AI の利活用」というタイトルだったので、もう少し教育利用に踏み込んだ内容を期待していたので。
- 法制度やリスク整理は明快でしたが、現場の課題に対する問題提起や打開策の提示がもう少しあると、実務的に一層参考になると感じました。

評価できない（途中退席等）

- お話の内容はとても有意義でした。初めての参加でしたが、音が少しこもってしまっていて聞きにくいところがありました。
- 私の環境の問題かもしれませんが、事務局の方々のお声ははっきり聞こえるのですが、先生方のマイクの音声がよく聞き取れない状況だったため、内容を評価できません。
- 業務の都合で途中退席したため。

3. 本日のセミナーで、よくわかったこと、新しい発見などがあればお書きください。

- AI に関する法整備の状況については、よくわかりました。
- 押さえておくべきポイントや法令
- 著作権法の最新動向がよくわかった。
- 参加者からの質問内容からも、いろいろな検討・判断が途上にあることが再確認できました。
- AI リテラシーの重要性
- 法に縛られるだけではないといけないという所は激しく同意しました。
- 著作権の対象となるところ。プロンプトが一般的な指示なのか、そこに独創性があるのかで変わる。言われてみればそうなのですが、あまり意識していなかったです。
- 大学教育としては、情報リテラシーの観点がより重要になるかと感じました。
- AI リテラシーという考え。

- AI と著作権への理解
- 著作権との関係は微妙だと思います。まだまだそういう点では黎明期にあるわけですが、急速な動きに対応できるような柔軟な思考も必要だと思いました。
- まだルール作りが途上であること。研究者間でも許容範囲が異なる（どちらかというと厳格である）こと。
- AI 推進の方針が定められようとしている現況、どのようにすべきか模索している現況が理解できた。
- 著作物の利用についても、すべてがだめなわけではなく、利用目的をはっきりする必要があること。また、学術論文も法律的な罰則はなく、各雑誌の要綱に沿う必要があること。
- 3. AI 法制に向けた各国の状況について、調べる必要があると思っていた内容がまとまっており、大変勉強になった。
- AI 活用における法的なこと
- 研究でも活用できそうである
- 著作権は分かりにくいいため、概要的な説明をいただきました。今後、いただいた資料の参考文献等を読んでみたいと思います。
- 倫理審査に関して新しい発見がありました。
- 生成 AI サービス利用時に確認すべき観点について理解できました
- インターネット検索の普及時にも懸念された「思考」作業が飛ぶ。今後の教育が「思考」になることが、改めて確認できたと思います。
- 教員の研究等の観点から論点が整理できてよかった
- 生成 AI を使用する際の注意点など
- 著作権の扱いについて概要をつかめたと思います。
- 生成 AI を教育で活用するためには、著作権法等にも十分気を付ける必要があることを痛感した。
- 分かりやすい画一的な規則があるわけではなく、各教育現場での判断の難しさ、所属する大学によって生じる格差は依然、解決していないことが分かった。
- 新しい知見を得た。
- AI 法制に向けた国内外の状況について接することができた。
- 大きな変化の中で法整備が追いかけている状況でもあり、事例が積み重なることでしか解決できない部分が多くあると理解しました。どのあたりがグレーゾーンなのかという感触が少しわかったように思えるところが成果でした。
- 類似性についての定義、考え方など
- 生成 AI に関する国内外の法整備の状況
- 日本政府、世界的に生成 AI に関連するリスク及び法律の制定や指針の制定等の現状の到達点が理解できた。
- 生成 AI の利活用において、著作権法のみならず、場面場面で様々な法律や権利が関わってくることが分かった。分かりやすく整理して頂いたので適宜見返したいと思います。
- EU や米国の AI 法制に関するトピックが興味深かった。米国の州による法制の違いや、いわゆる新興国の AI 法整備の状況についても気になるところ。
- 著作権等、法に基づく運用という前に、良識に基づく判断が必要という点、リスク管理の視点など。
- 生成 AI と著作権の関係
- 文部科学省「大学・高専における生成 AI の教学面の取扱いについて」の存在は知っていましたが、し

っかり内容を確認できていなかったようで、本日資料に含めてくださり感謝します。

- ずれた感想ですみません。他人の絵を使った AI 絵師っていまのところ合法なことに驚きました（と、解釈しましたが合ってますでしょうか）
- 日本における AI 利用にかかわる様々な法律とガイドラインは何を見ればいいのか分かりました。また、米国ではバイデン政権でおこなわれていたことが次々と覆されているが AI リスク対応についてもトランプ政権では規制緩和路線が強調されていることには驚きました。
- 生成 AI の位置づけの不明瞭さ。
- AI 解釈における現在地がよくわかりました。さまざまな先生方からのご質問においても、学修における問題点や悩みをみなさま同じように抱いていらっしゃる事が印象的でした。
- 生成 AI についての法整備が整っていない現状、法的に問題がなくとも、社会規範、社会通念を考慮し、リスクが高いと（ママ）
- 生成 AI の周辺に関する諸動向が俯瞰できた。
- 施行された AI 推進法はあくまでも「基本計画」であり、EU のような罰則を規定したものではない。ゆくゆくは EU のように具体性を持った法律に移行していくものと思われるが、生成 AI の利用に当たっては利用者個人に高い情報リテラシーが求められる。文化庁の資料を参考に判断していきたい。
- 生成 AI を使用する際の、法的側面から気を付けるべきことを再確認できた。
- 生成 AI 利用にあたり注意点は多いものの、AI の問題以前に著作権運用の時点で判断可能なことも多いとのこと指摘に得心しました。リテラシー教育の重要性を再確認しました。
- AI に関する法律は、文化庁の著作権法などによって規定されていると分かった
- 生成物は簡単に白黒判断はできないので、生成物の取り扱いには注意が必要だと感じました。
- 文科省の方針、各国と日本の比較
- 日本の AI の利活用における法整備が諸外国に比べて遅れていることを再認識できた。
- AI を用いた研究が様々な分野で増えてくると実感できた。
 - ・ 意外と現在の法律でも OK/NG が判断できるという点
 - ・ 生成 AI 固有の問題と、そもそもの著作権侵害の問題は分けて考える必要がある点
- 文化庁など 関連するサイトをまとめて頂いていて、それらの関連を解説していただいた（ように思っています）
- 現状の課題やリスクについて詳しく知ることができた。
- 著作物のプロンプト入力自体も複製行為になること。AI が完全に自律的に創作したものは著作物に該当しないこと。
- 日本の「人工知能関連技術の研究開発及び活用の推進に関する法律（AI 推進法、2025 年 5 月 28 日成立）」は、知らなかったため、これから大学教育に関わる立場で、しっかり確認しておこうと思いました。
- AI で生成したものでも、利用の仕方によっては著作権侵害になる可能性があることを知り勉強になりました。
- 生成 AI は便利だが、利用する前に利用規約をよく確認してから利用することが大切であると理解できました。
- AI 法の海外、国内の状況を整理していただいたので、ありがたかった。
- 1. と同様。上記の点がわかったことです。
- 特に著作権法と生成 AI の関係性、近年の国内外の生成 AI 関連法令など

- 気を付けるべきことは多いが、世界は想像以上に AI への対策を進めていたこと
- 「類似性と依拠性」に関して。ここがかなりクリアになった。著作権侵害に関して、プロンプトの時点で、「固有名詞を出さない」などをすれば回避できる、という風に考えていた。そうではなく、AI の利用を進めていく中で、様々なリスクマネジメントをし、また、どのようなリスクがあるのかを今一度教職員を含め、学生にも伝え、正しく使っていくことが大事だと再確認した。
- AI は創作手段の一つにすぎず、著作権侵害の有無を考える際の原則は従来どおりということ
- 生成 AI の活用に関しては、これからがとても重要であることが理解できた。そのためにも、少しずつ理解を深めていくことが必要である。
- 特になし。

4. 本日のセミナーで、よくわからなかったこと、疑問に残ったことがあればお書きください。

- 具体例があってもよかったかも。
- 論点が増えており各種の状況を理解するのがむずかしかった。
- 生成 AI の教育研究利用については、まだ倫理規範形成途上で国や個別の研究コミュニティとしての具体的な規範・ガイドラインが固まっておらず、手探りの状況であること
- 大学教育での実践的場面における AI の事例活用や注意点の具体的事例があればもっと伺いたかったです。
- AI と著作権 ケースバイケース
- AI 活用は、推奨されるのか、していないのか、ここの判断もまだ留保されるのだろう。では、どのようにして決定されゆくか、は疑問。（そのうち一般的理解になるのを待つのかという感）
- 誤った使用による罰則を事例で知りたかった。
- 2 と同様、学生の授業関連における使用の場合の問題点・注意点を知りたかった
- 日本の法律はあいまいな部分が多く、しっかりとした線引きをするのが難しいことがわかりました。線引きが難しいなか、間違えた判断をしないようにするのは、難しく、国から明確な指針がでることを期待しています。
- 今後、具体的にどのようなことが起こるか、まだ予測できないことも多いと感じました。
- 今後、日本の教育・研究機関で生成 AI をどのようなものとして位置付けるのか、方向性が分からなかった。
- 情報は得たが、EU と米国の違い、国と州法の違い、ビックテックの規制など、我が国の法制化を含めて、これからの課題に、先導的役割が求められている。
- 法的問題が解消されていないにもかかわらず教育現場で生成 AI を導入する矛盾点については、もう少し理解を深めたい
- 著作権法はそもそも罰するものではなく、曖昧さやグレーな部分が多いものなので、そもそも解釈がややこしく、生成 AI が出現したことで、それに関係する新たな論点がたくさん出てきて、さらに難解となったなと感じた。
- 個別事例の対応
- 明確に挙げるのは難しいです。
- 生成 AI の未来予測(何年後ぐらいにはどのような位置づけになっているか等)
- 規制も概念も途上にあることがほとんどだと本日のセミナーでも感じました。ぜひ続編を希望します。
- 教育関係者はなぜ「どこまでならできるか」と考えてしまうのか。
- 学生が生成 AI を使用したレポートや論文を提出してきた場合、どのように見極めるべきか。

- これを受けて大学の教育者としてどう対応していけばいいのか、どう考えればいいのかはこれからの課題だと思った
- ディープフェイクをどのように判断すればよいのか不安です。
- AI の活用の合法・違法の範囲が今後どのように定まっていくのか、何を参考に定まっていくのが疑問に思った。
- Q&Aにも書いている方がいらっしゃいましたが、今のところは個別の事案については実際に裁判になったりしないと OK/NG の判定ができないところが多いのだなと思いました。まだ新しいことなので仕方ないのかもしれませんが。
- 例えば 説明を聞いた時には「具体的になにをやったらアウトなの？」と 手っ取り早く知りたがる人がいます。教員にうまく説明できるか、悩ましいところです。
- 大学図書館が利用教育を行う上での留意点を知りたかった。
- 著作権そのものにも曖昧さがある中で、AI 生成物に関わる判断となるとさらに複雑で、完全には理解しきれませんでした。
- セミナーでも繰り返し注意喚起がありましたが、今回のセミナーは大枠としての一般論のご説明になるので、個別の事例でどのような例が著作権法違反になるのかを、典型的な事例をいくつか挙げるなどして教えていただけるとさらにうれしかったです。
- 今回の講義でとても理解が深まった。
- 法律的事項に関しては、その都度、専門家に相談する必要があるのでしょうか？
- 特にありません。(同様のもの7件)

5. 大学における教育・学修支援の在り方についてのお考え、教育・学修支援のために必要と思う資質・能力、また、教育・学修支援のご所属先での取組事例やご存知の特徴ある事例などがあればお書きください。

- 業務委託で勤務する大学では、学修支援の位置づけがあいまいなため、毎月の会議でも専任職員の考えと現場がすれ違うことが多く、取り組みに関しても独自のものになりがちです。学修支援を扱う部署はこれまでに変遷してきましたが、いずれも主とする業務がある中で学修支援も扱っているため、学修支援のあり方について時間を避ける職員がおらず、果たして現在の学生への相談対応が大学のポリシーに則っているのか、ディプロマポリシーを実現する一翼を担えているのか疑問です。こういったことを総合的に理解している人が必要だと感じます。
- 大学の使命目的に沿った教育（在学生の学力や資質）が今後ますます必要になってくる。
- アカデミック・アドバイジングについて興味があります。認証評価において重要視される事項であり、他大学の事例等に興味があります。
- AI を使わずにはいられない状況になってきましたが、同時に AI の弱点が明らかになってきたように感じています。学生に AI を使う上での注意等が、まとまってくるとよいと思います。
- より多くの博士号取得者が参加・協力することで得られる異なる視点や問題提起、解決案に期待したい。
- 生成 AI など新しい技術を積極的に使っていかなければ、学生に大学の価値を提供できないのでは、と考えています。所属先では残念ながら積極的な取り組みには至っておりません。
- 生成 AI は大学教育で積極的に活用していくべきと考えますが、消極的な意見があることがちょっと意外でした。
- 個人の知見、パーソナリティ、技量に拠るところが多いので、組織的に取り組んで良いパフォーマンスを出す取組があれば知りたいです。
- 知的財産、データサイエンス関係の講義で学生自身に生成 AI 利活用を考えさせるようにしております。

- 苦手意識の強い学生をどう学びに導くのか
- いつも他大学様の取り組みを参考にさせていただいているばかりで、こちらから、お話しできるような事案がなく、申し訳ありません。
- 教員・学生それぞれのニーズに寄り添い、柔軟に対応できる能力。(学生については教育的配慮も必要であり、匙加減が必要ではある)
- 城西大学水田記念図書館の「TOSHOKAN QUEST」は、職員の皆さんで自作された図書館利用方法を学ぶことができるゲームで、とても面白い試みだと思います。
- 高校までの情報の習熟度には学生により格差があるため、初年次の時点で、広義の情報リテラシーについて履修の機会を均等に与えることが望ましい。
- 事務的な文書体裁、要約、アイデア提案等で活用が多いと感じております。翻訳も特徴があって他の機械翻訳との比較検討となっているようです。
- AI を用いる正しい考え方を教えていくことも必要だと思った。
- 教育・学修支援のご所属先での取組事例やご存知の特徴ある事例 生成 AI などを含め、新しいツールの役割や使い方について、入学したばかりの学生にガイダンスしたり資料やガイドラインを作っていて素晴らしい・・・ のですが、情報系の(そういうのが得意な)教員に任されてしまっています。教職員みんながガイダンスを必要としています。
- 大学における教育・学修支援は、ICT の活用や AI ツールの導入が進む中でますます多様化していますが、今だからこそ「対面での丁寧なコミュニケーション」が重要だと考えています。学生の不安や戸惑いに寄り添い、言葉のやりとりだけでなく表情や態度からも反応を読み取るような、対面ならではの関係づくりの力は、教育支援の根幹だと思っています。
- 大学図書館では、レファレンスに生成 AI を使うことが予想されるので、図書館スタッフには、偽・誤情報を判断する能力が必要になると思います。
- 生成 AI を用いた学修支援で言えば、事務手続きの簡略化などのために生成 AI を活用しつつありますが、直接教育支援に活用しているところまでは達していないところです。
- 当施設では、「autonomy」や「inclusive」などを軸にし、「well-being」を大切にしている。学生が自ら学習(学修)する力を身につけられるよう、さまざまなイベントや活動を通じてサポートしている。学生が安心して安全に過ごせることも、学修において不可欠であると考え、well-being をテーマにしたワークショップやイベント(ヨガ、お散歩イベント、ディスカッション、チャットタイムなど)を開催している。さらに、自分の苦手・伸ばしたい分野に関してサポートする予約制の課外サービスや教員・利用学生・留学生と気軽に話せるサービスもある。授業では知識やスキルの伝達が中心である一方、私たちのような施設は、より学生に寄り添い、多様な学びのオプションを提供する役割を担っていると考えます。私たちが最も大切にしているのは、学生が安心して安全に学修に取り組める環境を整えることであり、学生のニーズを丁寧にくみ取り、自分の力で正しい方向へ進めるようサポートしていくことである。
- これからの時代には必要になってくると思います。有効に活用できるようにしたいと思いますが、現状は、認識・理解不足により活用ができていません。
- 特にありません。(同様のもの1件)

6. 本日の内容について等、その他、自由にご意見をお書きください。

- 今日のテーマを見て、これは拝聴しなければと思いました。
- 参考資料もたくさん提示していただき、よく読んで理解を深めたいと思います

- 内容が新鮮であるということ、法的根拠や国の方針などがわかるということは業務に生かせるので大変勉強になりました。
- 講演テーマが『生成AI』だった為、事務職員としての視点、立ち位置が見えにくかった。
- 本日は貴重なご講義を賜り、ありがとうございました。大変勉強になりました。AI における権利侵害について、個人的には「問題は作成者が違法性を意図せずおこなうことである」と感じておりますが、本日のセミナーでも、生貝先生はじめ、他の先生のご質問からも同様のメッセージを読み取ることができました。大学生のモラル教育は初年次導入教育や入学ガイダンスといった機会でおこなうことができますが、そのような機会がないまま AI を利用する社会人は、何のためらいもなく権利侵害にあたる利用をしている場面が見受けられます。さらに、そのような保護者をもつ小中学生ほど、低年齢でも SNS を利用していたりもします。社会全体の啓発が欠かせないと本日改めて感じました。
- 本日は貴重なお話をありがとうございました。マイクの関係でしょうか、講師の先生の声が聞き取り難かったのが残念でした。
- 講師の先生には「教育活動（学生への指導）上、生成 AI をどう活用するかというような指導法については言及しない」という前提で講演していただいたが、本日伺った生成 AI をめぐる技術革新とそれに対応する法的な整備（そのための議論）の最新情報を踏まえ、各教員自身が授業等を工夫する必要がある。「どこまでなら生成 AI を使えるか」というような狭い視野ではなく、社会全体の DX 化の中で学術・文化・経済を発展させるために、よりよく考え行動できる資質・能力育成に向けた学修の在り方をどう捉えるかが重要である。生成 AI は重要なキーワードであるが、コンプライアンス意識が高まりすぎるあまり、アウト／セーフの線引きのような窮屈な議論になりがちなのが残念である。
- 本日は有意義なセミナーを開催していただき、誠にありがとうございました。生成 AI に関する知識は常にアップデートが必要だと思いますので、定期的に行なっていただけたら幸いです。
- AI を取り巻く現状について学ぶことができた。
- 生成 AI については、近年は活用方法等についてはいろいろなところで取り上げられていますが、著作権や倫理の問題については意外と聞く機会が少ないように思いましたので、とても良い機会になりました。ありがとうございました。
- とても分かりやすい内容でしたが、もう少し大学教育に関連させた内容も含めていただきたかったです。
- 自分の勉強不足で理解が追いつけなかった。今後も知識を深めていきたい。
- また今後も機会があれば、ALPS セミナーに参加させていただきたいと思います。
- 全て視聴することができなかったので、要点あるいは講演スライド、期間限定動画配信などがあると大変助かります。
- はじめてお聞きする内容が多く、たくさん知識を習得できましたので、今後の業務に役立てたいと思いました。
- 生成 AI について学ぶ機会をいただき、ありがとうございました。
- 質疑応答での権利侵害の範囲に係る話題で、「どこまで OK」の線は引けない」「生成 AI であるか否かにかかわらず、常識的なリスク判断をしていくことが重要」とのお話が印象的でした。生成 AI の使用という前提があると、どうしても特別な判断基準を求めてしまいがちですが、基本に立ち返って著作権についての理解を深めることの重要性を感じました。
- 他機関の職員ですが参加をさせていただき、ありがとうございました。
- 進行役の方のマイクの音声はよく聞こえたが、発表者のマイクの音声は時折聞きづらかった。肝心なと

ころで聞きづらくなり、残念だった。

- 勉強になり、ありがとうございました。また関心に近いセミナーがあれば参加させていただければ幸いです。
- 貴重なお話いただきまして誠にありがとうございました。
- 本学でも AI の授業があり、私たちの業務の中でも AI を利用することがある。AI はこの 2,3 年で急速に身近に感じ、個人利用でもアプリをダウンロードしているほどだ。あまりにも身近に感じ、時々 Chat GPT に関しては人と話している感覚に陥る。悩み事やちょっとした会話など話すこともある。しかし、AI を利用することは我々の生活をより便利に、そして豊かにするが、あまりにも身近に、かつ気軽に利用できるからこそ講義の中でもあったように常にリスクを考えて利用することも大切だと再認識することができた。
- 生成 AI のみならず、様々な分野で AI を活用した事例を紹介して頂けると、少しヒントになることが見えてくるかもしれません。今後のセミナーに期待しています。
- 本日はありがとうございました。

7. ご所属について、該当するものを選んでください。

- ・千葉大学に所属 27 名
- ・千葉大学以外に所属 112 名

8. 身分について、該当するものを選んでください。

- ・学生 4 名
- ・教員 32 名
- ・大学職員(図書館職員を除く) 42 名
- ・図書館職員 50 名
- ・出版関係 3 名
- ・その他 8 名

9. 千葉大学アカデミック・リンク・センターでは、セミナーの開催や関連する情報を提供しています。これらの情報を希望される方は、お名前・ご所属・メールアドレスをご記入ください。(既に登録されている方は引き続きお届けします。「登録しない」を選択してください。)

- ・登録する 36 名
- ・登録しない 103 名